

現状の課題と今後の方向性は ニーズを整理し支援の輪を広げる



はまむら みか 議員
濱村 美香 議員



問 町内には現在5つの放課後子ども教室がある。現状と課題を問う。
その課題を踏まえ、今後の方向性を問う。

答 渡辺教育次長
放課後に子どもたちが安全に過ごし、学習や交流の場を提供する教室は、町内に5箇所設置、町子ども教室連合保護者会が町から委託を受けた形で運営。年間実施日数は238日、延べ利用者数は2万7800人だ。
課題は、一部児童の送迎が必要であり、支援員の負担となっている。



放課後子ども教室で宿題を済ませる児童たち
(奥湊川子ども教室 令和8年9月)

また、支援員の確保等、運用面の見直しが求められている。
今後は、保護者のニーズを整理し、本来の目的である「地域全体で子どもを育む環境づくり」への立ち返りを図りたい。
地域との連携を推進し、町内事業者との協働も模索しながら、関係者と協議を重ね、子育て支援の輪を広げていく。

手話言語条例

**制定に向けた進捗状況は
年度内制定に向けて取り組む**

問 手話は聴覚に障害を持つ人たちが気持ちを伝えあう。また、命を守るための情報を得る大切な言葉である。手話をひとつの言語として認識し、聴覚障がい者も健聴者も互いに尊重しあいながら暮らせる町づくりのために手話言語条例の制定を進める時期にあるのではないか。制定に向けての進捗を問う。

答 野村健康福祉課長

聴覚障がい者にとって手話による情報取得や意思疎通ができる環境は、日常生活、行政手続き、教育、就労、地域活動などあらゆる場面で重要。

近隣市町村の事例を調査し、人材確保、職員研修、普及活動、災害対応等の

取り組み状況を確認する。同時に、町内の手話利用者や関係機関、手話通訳者、聴覚障がい者協会の皆様との協議を早急に行い、今年度中の条例制定に向けて取り組む。



手話で会話する森田さんご夫妻
(仕事場にて 令和8年9月)

【その他の質問】

・災害対策について
・産業推進施策について